

宮城県林業普及活動情報

2024. 12月号 No. 199

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2～10

- 森林経営管理制度R6市町村伴走支援 (大河原地方振興事務所)
- こけし用材の確保のために整備されたミズキ造林地の現況確認 (大河原地方振興事務所)
- コナラ等の広葉樹に対する虫害に関する相談への対応 (大河原地方振興事務所)
- 原木しいたけ生産・出荷に係る相談対応 (北部地方振興事務所)
- ミズキ苗現地視察 (北部地方振興事務所)
- 早生樹（コウヨウザン）造林試験地の生長量調査 (北部地方振興事務所)
- 所有森林の整備についての相談対応 (北部地方振興事務所)
- 経営管理制度の進捗指導 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 再造林の推進協定に基づく植樹式の開催 (東部地方振興事務所)
- 「県産材バレルサウナの展示@南三陸林業フェスティバル」への運営支援 (東部地方振興事務所)
- 「みやぎ水産の日販売会」での木工品及び特用林産物の販売支援 (東部地方振興事務所)
- 木樽製作による広葉樹利用推進を目的としたワイナリー視察 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 特選上つつじメンマを販売 (気仙沼地方振興事務所)
- 南三陸林業フェスティバル2024への支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 令和6年度伐木等の業務労働安全衛生特別教育（第3日目／3日）を実施 (林業技術総合センター)

森林経営管理制度R6市町村伴走支援

大河原地方振興事務所

【5日(木)】

川崎町では、昨年度から集積計画を作成し、6月に公告を行い、さらに今年度中に追加で公告予定であり、来年度集積計画を作成予定箇所についても事前に援助資料の提供を行っていたため、今後のスケジュールについて確認を行いました。

6月公告分については、年度内に森林整備事業を発注し、これから公告する箇所はR7年度に調査測量を発注する予定であることを確認しました。

引き続き、進捗状況を確認しながら、経営管理制度実施の推進に向けて支援していきます。



【打合せの様子】

こけし用材の確保のために整備されたミズキ造林地の現況確認

大河原地方振興事務所

【5日(木)】

白石市は地域産業であるこけしの材料として使用されるミズキの造林地である「平成の森」を平成2年に整備しました。近年では資源の減少等からミズキ材の確保が難しくなっていることから、植栽から30年程度経過した当該造林地でミズキが材として利用できる状態となっているか確認を行うため、それに同行しました。現況としては3,400本/haほど植栽したミズキの個体は少なく、他の広葉樹が繁茂する林分となっていました。谷筋にはある程度まとまってミズキが生存していましたが、同行したこけし生産者からは、節が多く、こけしの製作には適さないとのことでした。現況から、植栽したミズキが他個体やササ等に被圧されて枯死し、個体数が減少したと推定されました。一方で水分が集積しやすい谷筋はミズキにとって適地であるため他個体よりも成長が良く、生存数が多くなったと考えられました。

今回のミズキ造林地では材として利用できる個体は少ない状態でしたが、植栽から30年程度経過した林分は少ないため、今後のミズキ造林地の整備等を行う上での知見を得ることができました。



【ミズキ造林地内の様子】



【谷筋に生存するミズキ】

コナラ等の広葉樹に対する虫害に関する相談への対応

大河原地方振興事務所

【17日(火)】

丸森町でコナラ等の広葉樹を植栽した2地区の森林において、森林所有者が広葉樹の若木の幹下部に穴（産卵痕）とフラスがあることを確認したことから、町役場の林務担当者を通じ、当事務所に被害状況の確認と加害昆虫の特定等について相談を受けました。現地確認を行ったところ、樹高5m程度のコナラを中心に被害が確認され、穴の大きさやフラスの状態からカミキリムシによる被害が推定されました。一方で冬季のため成虫活動期ではないことから、加害昆虫の特定には至りませんでした。被害木は2地区で30本程度と推定されたため、他の個体への被害が拡大する可能性があることから、成虫が脱出する時期までに被害個体の伐倒及び破砕等による処理を検討するように森林所有者へ伝えました。



【被害状況の確認】



【幹下部の産卵痕とフラス】

原木しいたけ生産・出荷に係る相談対応

北部地方振興事務所

【4日(水)】

これまで、自家消費用に原木しいたけを栽培されていた方から「今後、出荷していきたい。」との相談があり、必要な説明を行いました。

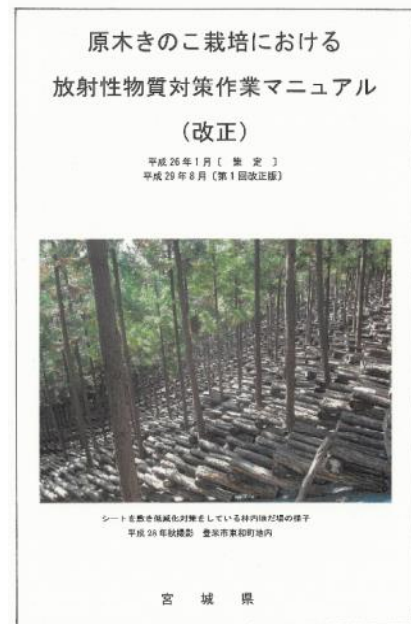
今なお原子力発電所事故による放射性物質の影響があるため、出荷するには「原木きのこ栽培における放射性物質対策作業マニュアル」に従った生産・手続きが必要である旨説明し、理解していただくとともに、追って、担当者からも情報提供することで了解されました。

今後、生産に係る費用や規模等を検討した上で出荷の可否を判断するとのことであり、出荷する場合には、必要な支援を行っ



【相談対応の様子】

てまいります。



【参考：マニュアルの表紙】

ミズキ苗現地視察

北部地方振興事務所

【9日(月)】

登米地域事務所管内で広葉樹苗木を生産している林家を訪問し、ミズキ苗の情報収集を行いました。

生産者の苗畑には、令和3年に播種して育てられた広葉樹各種が大小さまざまあり、そのうちミズキは、約50本あり、移植可能な樹高2m～3mのものが20本ほどありました。

今回得られた情報を鳴子（こけし）木地玩具協同組合と共有し、今後、合同で苗木生産者を訪問し、苗木移植の候補地選定や各種調整を行って、こけし材料として森林資源循環の準備を進めてまいります。



【ミズキの成長確認】



【萌芽株も利用可能な状況】

早生樹（コウヨウザン）造林試験地の 生長量調査

北部地方振興事務所

【18日(水)】

令和元年に植栽し、毎年調査を行っているコウヨウザン造林試験地（協力：(有)鎌田林業土木）について、6年生の生育状況を把握するため、生長量調査（根際径、樹高、胸高直径）を行いました。

昨冬（R5）は小雪であったこともあり、コウヨウザンの倒伏本数は少なく、過去の下刈り時に誤伐されたものにも多数の萌芽枝が確認できました。

コウヨウザン植栽区の調査結果は、根際径、樹高、胸高直径のいずれもが、対照区（スギ）を上回る生長でした。



【生長量調査の様子】

経営管理制度の進捗指導

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【4(水)、10日(火)】

栗原市においては、森林経営管理制度に基づき、令和元年度から、旧町村単位に、委託による意向調査、集積計画作成、間伐・除伐事業を行っていますが、全体的に事業遅滞が生じていることから、発注者である栗原市、受託者である栗駒高原森林組合に対し、それぞれ指導を行いました。

公告済みで間伐等の事業発注に至っていない旧3町分においては、意向調査から5年ほどが経過していることから、栗原市に対し速やかな発注を促したほか、毎年約千名、2千筆が調査対象となっている意向調査においても、受託者の事業期間を確保した速やかな発注を指導しました。

委託者である森林組合に対しては、集積計画の精度向上を指導しました。

栗原市はこれまでも率先して当該事業に取り組んでいましたが、残る旧栗駒町の意向調査や、旧花山村、旧鶯沢町の集積計画策定において、今後は県として伴走型支援を行いながらスムーズな進捗を目指して行くこととしています。



【現地踏査を踏まえた集積計画の精度向上を指導しました】

再造林の推進協定に基づく植樹式の開催

東部地方振興事務所

【5日(木)】

令和2年6月に締結した株式会社山大、石巻地区森林組合、宮城県東部地方振興事務所による再造林協定に基づき、現地で関係者約70名による植樹を行いました。(令和2、4、5年度に続き第4回目)

石巻市渡波字地竹地内の伐採跡地にスギ苗木(少花粉品種)600本を植栽しました。

今後も関係機関と連携を図りながら、伐採跡地における再造林を促進し、森林資源の維持・増進を図ることで、地域の環境保全やSDGsの達成に貢献することを目指し、取組の輪を広げながら活動が続けていきます。



【植樹の様子】

「県産材バレルサウナの展示@南三陸林業フェスティバル」への運営支援

東部地方振興事務所

【8日(日)】

神割崎キャンプ場で開催された「南三陸林業フェスティバル」において、当管内の木材加工事業者が県産スギ及びヒノキを使用して製作したバレルサウナを展示し、ブース運営を支援した。当日は、併せて県産スギ材を使用した水風呂桶も展示しました。

フェスティバル来場者は450名程度だったことから、県民に向けて幅広く県産材バレルサウナをPRすることができました。設備の都合上、火入れはできませんでしたが、実際に中に入って内装の見学を行えるようにしたところ、子どもから大人まで、多くの方が見学し、木材のもつぬくもりに触れてもらうことができました。

今後は火入れし、サウナとして試運転を行うとのことだったので、引き続きPRなどの支援を行っていきます。



【展示した県産材バレルサウナ】

「みやぎ水産の日販売会」での木工品 及び特用林産物の販売支援

東部地方振興事務所

【18日(水)】

県石巻合同庁舎1階ロビーで毎月第3水曜日に開催されている「みやぎ水産の日 地域の小さな販売会」において「林業ブース」を設け、管内で生産された菌床しいたけや竹製品などの特用林産物のほか、管内木工業者が作成した木のまな板やコースター、ジビエなどの販売支援を行いました。

当日は出品したいずれの製品もほぼ完売となり、管内で生産された特用林産物等の販売支援に繋がりました。また、毎月同販売会で実施しているきのこの販売支援だけでなく、今回は木工品やジビエ、竹製品などを合わせて販売したことで、来場者に対し、林業・木材産業の繋がりを広く説明・PRすることができました。

今後は、引き続き同販売会（毎月1回開催）において販売支援を行うほか、様々な販売会等の機会を捉え、管内の特用林産物及び木工品の販路拡大に取り組んでいきます。



【今月も盛況だった販売会】

木樽製作による広葉樹利用推進を目的 としたワイナリー視察

東部地方振興事務所登米地域事務所

【3日(火)】

広葉樹材の新たな用途を検討し、地域における加工と製品開発につなげるため、ワイン醸造に用いる木樽に注目して、登米市地域おこし協力隊2名とともに大和町のワイナリーを訪問しました。実際に熟成に使用している木樽を見学しながら、ワイン製造における木樽の役割や、樽の流通、今後の樽需要や使用する木材について情報を得ることができました。

林業と酒造分野がつながれ、新たなビジネス創出による地域振興が期待されます。



【ワイナリー視察状況】

特選上つつじメンマを販売

気仙沼地方振興事務所

【6日(金)】

管内の特産品PRを兼ねた地場産品直売会が気仙沼合同庁舎において開催され、「特選上つつじメンマ」の販売支援を行ったところ、好評につき、用意した味付メンマ25パックが瞬く間に完売しました。

特選上つつじメンマは、今年から気仙沼市本吉町でつくり始めたもので、地元の幼竹を使った「純国産」メンマです。今年の生産量は約15kg(乾燥状態)でしたが、来年は増産を目指していますので、見かけた際にはぜひ手にとってみてください。

【販売先：軽トラ市(三陸道本吉パーキングエリア)・道の駅大谷海岸(来年度販売予定)】

(※「特選上つつじメンマ」の名称は、ツツジの名所「徳仙丈山」を連想させます)



【販売会の様子】



【特選上つつじメンマ】



南三陸林業フェスティバル2024への支援

気仙沼地方振興事務所

【8日(日)】

南三陸森林管理協議会の主催で、昨年度に初開催された林業イベントで、南三陸地域と宮城県のエス（丸太生産・製材・製品化まで）を楽しくわかりやすく体験できるイベントとなっています。

話題の知育玩具「ズレンガ」の体験や廃材ロボットづくりなど様々な体験ブースの他に、林業トークショーの開催や、牡蠣汁やクラムチャウダー、タコの唐揚げといった海産物を主体とした飲食ブースも多数出展しており大盛況でした。

当所でもブースを設け、ドローン操縦体験、気仙沼管内産きのこの試食コーナー（しいたけの唐揚げ）、なりきり林業キッズコーナー、モルック体験を出展しました。その他、気仙沼管内にゆかりのあるご当地キャラクターが勢揃いした顔はめパネルの設置も行い、たく



【ご当地キャラ顔はめパネル設置状況】

さんの来場者に楽しんでいただきました。

なお、当日は強風により、昨年度好評だったドローン操縦体験やきのこの試食コーナーが中止となってしまう、楽しみにされた方には残念な結果となってしまいましたが、来年度の開催も検討されているようですので、次回開催をご期待願います。



【モルック体験状況】



【なりきり林業キッズコーナー】

令和6年度伐木等の業務労働安全衛生 特別教育（第3日目／3日）を実施

林業技術総合センター

【20日（金）】

県職員が、現場においてチェーンソー作業を実施する際に、労働基準法で事業者に求められる義務と同等の責務を確保するため、5名の受講生を得て、労働基準法に規定する標記特別教育の6時間分を実施しました。

カリキュラムは必要教程のうち、「伐木等の方法」（5時間）、「チェーンソーの点検及び整備」（1時間）を実施しました。具体的には、突込切り・受口と追口の作り方（左右）、ロープワーク（縄で動滑車同等の効力を発生させる方法ほか）、フェリングレバーを用いたかかり木処理、枝払いと造材、チェーンソ



【受口・追口づくりの実技】

一の目立て等について教示しました。

最後に、労働基準法に規定する標記教育修了者に修了証を交付しました。

今回は、小径故損木の伐倒でしたが、倒伏の刹那の見極め不良や倒伏を傍観する傾向が見られ、5秒以内の3m待避が徹底できませんでした。また、平地における造材を実施したところ、1本の伐倒木を2人で同時に作業するなど、学科で教えたことを、システムチックに実行することが出来ないことが分かりました。労働安全に関する教育方法に課題を残しましたが、次回は改善します。規定時間内では、十分な教育が出来ないことも事実としてありますので、自己研鑽に期待します。



【伐倒の実技】